

2011年度 日本経営品質賞 報告会
経験デザイン
～価値共感をめざした経験提供を～
主催：日本経営品質賞委員会 共催：経営品質協議会・公益財団法人日本生産性本部



日本経営品質賞の授賞式（中央奥が根岸社長）

今回で16回目を迎える2011年度「日本経営品質賞」の授賞式は2月23日、ロイヤルパークホテル（中央区）3階のロビーで、各界関係者ら約8百名が出席し、晴れやかに開催された。

最初の表彰セレモニーでは、大企業、中小企業、2部門に分かれ計3社が表彰された。このうち(株)ねぎしフードサービス（根岸榮治社長）が念願の「日本経営品質賞」を射とめた。増上では、佐々木元・日本経営品質賞委員長より根岸社長に記念の盾、相長治美・取締役総務部長にトロフィーが手渡された。併せて列席した同社幹部や店長ら約40名も会場内で立ち上がり、祝福を受けた。

来賓では、石黒憲彦・経済産業政策課長の祝辞の後、主催者を代表して牛尾治朗・日本生産性本部会長が「表彰を受けた3団体の代表の方々は皆さん自信に溢れている顔をしていて、この受賞は、経営者と従業員の相互信頼によるもの。一人ひとりの連帯感による結束力こそ大切な企業財産だ。ねぎしは、一定地域に出店を限定した中で、独自の顧客価値を創造し続け、「親切」をモットーにサービスを提供している。リスクマネージメントを抱えつつ常に経営を革新し、人財共育に取り組んできた。特に、幹部、店長をはじめ、外国人を含む約6百名のアルバイトまで、会社が一体となり、アンケートや対話による

「気づき」で自己革新に取り込む姿勢が評価された。これからの経営者は知識、見識に加え、胆識（胆力）を以って決断していくべきだ」と挨拶した。

のち舞台スクリーン映像による企業組織紹介では、ねぎし従業員らの活き活きとした日々の活動を観賞した。午後再開された講演会では、一番ハッターで根岸社長が「百年企業への人財共育と風土づくり」という演目で、約1時間、熱弁をふるった。

（株）ねぎしフードサービスが「日本経営品質賞」受賞



根岸 榮治社長

「親切」で100年企業に